

2 ワークショップ(概要)

1 目的

ワークショップは、参加者が、浜松市の環境についてテーマ別（みず、みどり、いのち、まち、くらし、まなび）に課題点を抽出し、その対策について、話し合い意見をまとめ、環境基本計画に反映することを目的に9回に渡って実施しました。

2 ワークショップ参加者

みず6人 みどり7人 いのち7人 まち4人 くらし6人 まなび5人 計35人

チーム名	参加者氏名（敬称略）
みず	二橋恒夫、白崎守雄、小野博、伊藤信一、高橋淳子、大平展子
みどり	竹谷哲史、小川智広、丸康人、宮津泰、石田明子、古橋照久、鈴木満帆
いのち	城内穂積、瀬下亜希、鈴木卓、笠原佐智子、石津宗子、名倉秀明、祝田進
まち	小池修、吉田和子、西川朝子、塚本恭子
くらし	岩田康昭、山中恵美子、井柳誠、犬塚雅敏、野中正子、加藤承胤
まなび	土橋登巳代、水野静子、近藤要恵、笹田尚利、菫川新一



【事務局の事前説明】



【各班での話し合い】



【各班での話し合い】



【各班の発表】



【各班の発表】



【全体写真】

3 ワークショップの開催

ワークショップは、平成18年5月21日から平成19年10月27日まで9回開催しました。その概要を以下に示します。

第1回：全体会① 平成18年5月21日（日）14：00～16：00 場所 保健所

テーマ「知り合いになろう！みんなで共有したいこと」

ワークショップの目的や進め方、ルールなどの説明の後、テーマ（みず、みどり、いのち、まち、くらし、まなび）別に6つの班を編成しました。

第2回：分科会① 平成18年6月18日（日）14：00～16：00 場所 なゆた・浜北

テーマ「仲良くなろう！ゲーム感覚でチームづくり」

班の親睦を深め、メンバーの能力が最大限に発揮できるようなチームづくりのためミニゲームを行いました。その後、班別に「浜松良いところ・悪いところ」というテーマで話し合い、発表しました。

第3回：分科会② 平成18年7月16日（日）14：00～16：00 場所 なゆた・浜北

テーマ「ここが問題！現状の課題について考えよう」

浜松市の環境の現状について説明の後、班別に「ここが問題！現状の課題・問題」について話し合い、課題を抽出しました。

第4回：分科会③ 平成18年8月20日（日）14：00～16：00 場所 なゆた・浜北

テーマ「こんなまちになったらいいな！将来像と方策」

第3回の課題抽出を受け、班別に「なったらいいな！こんなまち」という将来像について話し合いました。さらに、実現するには「どうすればいいのか、どんな方策や計画が必要か」アイデアを出し合いました。

第5回：分科会④ 平成18年9月17日（日）14：00～16：00 場所 なゆた・浜北

テーマ「まとめてみよう！浜松環境シートづくり」

前回、前々回のワークショップの成果について、再度、整理・体系化を行い、「環境シート」にまとめました。

第6回：全体会② 平成18年10月15日（日）14：00～16：00 場所 なゆた・浜北

テーマ「中間発表会～ぐるーっと全体を眺めてみよう」

これまでの検討成果について班別に発表しました。さらに、学識経験者や市の関係課の担当者にも参加していただき意見交換をしました。

第7回：分科会⑤ 平成18年11月19日（日）14：00～16：00 場所 なゆた・浜北

テーマ「私達にできることって…？環境指標」

第6回の発表会を受け、「環境シート」を見直し「自分達自身で取り組むべきこと」について話し合いました。さらに実現のための「市民」、「市役所」「事業者」の責任と役割分担を検討しました。

第8回：全体会③ 平成18年12月17日（日）14：00～16：00 場所 なゆた・浜北

テーマ「これまでを振り返り、これからすべきことを考えましょう」

これまでの経過や成果を振り返り、話し合ってきた将来像や方策を実現していくための今後の展開について考えました。そして、各班別に最終提案の発表を行いました。

第9回：全体会④ 平成19年10月27日（土）14：00～16：00 場所 保健所

テーマ「環境基本計画（案）とワークショップ」

ワークショップでこれまで話し合ってきた将来像や方策が、環境基本計画にどのように反映されているか説明を受け、意見交換をしました。

4 ワークショップの提案について

ワークショップの成果として、各班で「環境シート」を作成しました。その中で示された将来像やその方策、そして実現のためのプランを示します。

班名	みず
将来像	<p>水を通じた交流でふるさとの山・川・海をまもり隊</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 水の源は山。皆でまもれ 2. ダムと砂丘をまもれ 3. よみがえれ佐鳴湖
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐鳴湖全国ワースト1からの脱却！ ・ 仮想的な浜名湖博物館を教育活動に活かす ・ おらが山再生プラン
実現プラン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 佐鳴湖全国ワースト1からの脱却！プラン <ul style="list-style-type: none"> ・ アクリルタワシ、ガラ紡などの利用の推進、補助、価値のアピール ・ 佐鳴湖にスイレンを植えて水質浄化 ・ 風力発電・水車・噴水・エアーポンプを設置し、湖に酸素を入れる。 2. 佐鳴湖浄化『スイレンプロジェクト』 <ul style="list-style-type: none"> ・ 佐鳴湖は塩分濃度が高いため、淡水化を目指し「逆流防止可動堰」設置する。 ・ スイレンを植え、「スイレンの花」が咲き乱れる親水公園として佐鳴湖を整備する。 3. 仮想的な浜名湖博物館を教育活動に活かす <ul style="list-style-type: none"> ・ 浜名湖博物館は建物が存在するのではなく浜名湖を環境学習等に利用することによって自然博物館として機能をもたせる。 4. おらが山再生プラン <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状を知り（視察）→啓蒙活動（山の博士制度）→山のボランティア養成広葉樹林を増やす→皆で森林を守っていく→外材と地元材の格差是正→飲料水にコストの上乗せし、皆が少しずつ負担する。

班名	みどり
将来像	<p>自然(動物含む)と人間の共生</p>
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然回復ネットワーク計画 ・ 啓発活動（対象…大人） ・ 自然探索隊 ・ 環境学習と環境教育（対象…子ども）
実現プラン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然回復ネットワーク計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ 浜松市内で活動している各種環境保全団体の代表者及びリーダーによるワーク会議を開催する。 2. 地域住民が行う身近な山林再生プラン <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の住民が山林の手入れをすることにより、住民のフレッシュの場、ふれあいの場、環境学習の場とする。 3. 自然探索隊 <ul style="list-style-type: none"> ・ 子供から大人までさまざまな年齢層で隊を編成する。浜松市内を探索するコースを複数設け、自然体験と地域交流を同時に行い、深めるものとする。 4. 環境学習と環境教育 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然と直接触れ合うことで、子供たちに自然の中で遊ぶことが楽しいことと実感させる。 ・ 高校生、中学生を環境リーダーとし小学生を対象とした自然観察会や環境学習を行う。

班名	いのち
将来像	自然と共生する都市はままつ 潜在的な復元力を活かす長期計画
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浜松市版レッドデータブックと市自然環境マップ全市版作成 ・ レッドデータブック記載種の積極的保全対策事業 ・ 環境教育の充実と活用 ・ はままつエコロジカルネットワーク事業 ・ 官民協力の地域生態系への貢献度を高める環境整備 ・ 自然の遷移を尊重した植生回復事業 ・ 高齢林の保存、育成 ・ 生き物を豊かにする森林施業マニュアルの作成 ・ 落葉広葉樹生態系の保全・育成とシイタケ原木次世代資源確保 ・ 自然と共生する農業推進事業 ・ 休耕田や学校田などに湿地性生物を誘致 ・ 遊水池、調整池、沈砂池、廃養鰻池などに湿地性生物を誘致 ・ 風力発電など民間の開発にも公共事業なみの環境アセスメントを
実現プラン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 浜松市版レッドデータブック作成と市自然環境マップ旧市外部補充 2. レッドデータブック記載種の積極的保全対策事業の展開 3. 環境教育の充実と活用 4. はままつエコロジカル・ネットワーク事業 5. 官民協力の地域生態系への貢献度を高める環境整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域生態系への貢献度を高めるような活動を促進するための動機付けを行う。 6. 自然の遷移を尊重した在来種による植生回復事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ 在来植生、樹種による植生回復 7. 高齢林の保存・育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保存樹木・樹林の全市域への拡大指定 8. 生きものを豊かにする森林施業マニュアルの検討・作成 9. 落葉広葉樹生態系の保全と積極的育成 10. 自然と共生する農業推進事業 -私たちと将来世代の生活基盤を守る- 11. 休耕田や採算を問わない学校田などに湿地性生物を積極的に誘致する 12. 遊水池、調整池、沈砂池、廃養鰻池などを湿地性生物の誘致施設として整備する 13. 風力発電など民間企業の開発行為にも公共事業なみの環境アセスメント基準を適用

班名	まち
将来像	美しいまち 誇れるまち わたしのまち
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ NPOやボランティアなどまちづくりグループをネットワークしようまち意識啓発 ・ 浜松の歌にダンスやキャラクターを公募するなど、啓発活動しよう歩く文化 ・ 歩いて楽しいまちづくりマップ作成や道の駅造設でまち文化を創造する。
実現プラン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「ネットワークづくり」計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークショップのメンバーが中心となって、浜松市内の環境団体のネットワークづくりを行う。 2. 「まち意識啓発」計画 <ul style="list-style-type: none"> ・ 「すてきなまち浜松キャンペーン」を実施する。(すてきなまち浜松)の歌を広めることで啓発を行う。 3. 「歩く文化」創出計画 I <ul style="list-style-type: none"> ・ 「歩く文化」マップを作成する。駅や公共施設で配布し広く活用してもらう。マップをつくることから(浜松のまちづくり)へ発展させる。 4. 「歩く文化」創出計画 II <ul style="list-style-type: none"> ・ “まちの駅”づくりを行う。浜松市内の使いきれていない公共施設を活用し、市民の交流の場等の活用を行い活性化を目指す。 <p>※これらのプランをチェック、推進する機関をワークショップのメンバーを中心に発足させる。</p>

班名	くらし
将来像	省エネ・ごみ減量 地産地消で循環するまち 市民の手で実践
方策	<p><タイトル> 省エネ、省資源、ごみ減量</p> <p><キーワード></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみのないまち ・入り口から減らそう！ごみ ・地域主導でごみ問題解決 ・一家だんらん、集まって省エネ ・じまんできるまち <p><どうすればいいの></p> <ul style="list-style-type: none"> ・意識を高める教育グループを作る (学校、企業、行政) ・学校教育でごみ減、省エネ授業を必修 (先生を育てる) ・手軽に省エネの環境作り・省エネの目玉 ヒートポンプ ・ごみの出ない生活を市民に強くアピール ・市内全域にリサイクルステーションを！ ・生ごみの分別、堆肥化でリサイクル ・国内外の先進地に学ぶ ・ごみ減量のスーパー、コンビニの協力 ・ごみ減量の企業の責任分担 ・業者、生産者、消費者、手を繋いでリサイクル ・地産地消、旬産旬消 ・ポイ捨て防止パックの持ち歩き ・省資源生活の自慢コンテスト
実現プラン	<p><テーマ> わたしがやります ごみ対策！(※わたし=市民・行政・企業)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 省エネ (全体1/3省エネ) (めざせ・うちエコ) <ul style="list-style-type: none"> ・一家団らん (指標10~20%減) ・チームマイナス6% (指標5~10%減) ・ヒートポンプ活用 (家庭に導入) (指標5~20%減) ・自家用車利用の減少 (指標5~10%減) 2. ごみ減量 (めざせ・ごみ減) <ul style="list-style-type: none"> ・指標 (一家で一日100g削減) 3. めざせ1R <ul style="list-style-type: none"> ・地産地消 (旬産旬消) ・使い捨てなしの生活 ・指標 (1R・3Rの認知度を促進)

班名	まなび
将来像	自然いっぱい、ふれあい、たっぷり！ 子どもから年寄りまでがいつでも身近に集うところがたくさんある浜松
方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 環境体験 — 1学校・1田・1畑— 環境体験の場 「地場野菜を育てる」 ・ 環境コミュニケーションの場作り=学習プログラムのネットワーク=子どもから年寄りまで
実現プラン	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境体験 — 1学校・1田・1畑— 環境体験の場「地場野菜を育てる」 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル学校で実施する(たまねぎ、サツマイモ等の栽培に取り組む) ・地域の農業経験者による指導を受ける。 2. 環境コミュニケーションの場づくり —学習プログラムのネットワーク— 子供からお年寄りまで <ul style="list-style-type: none"> ・現在ある公共施設・寺・神社等を活用し地域のネットワークによりコミュニケーションの場とする ・年長者の活用—本人の生きがい、子供達へ経験・体験を引継ぐ